

精神科領域専門医研修プログラム

■ 専門研修プログラム名：高知大学病院連携施設 精神科専門医研修プログラム

■ プログラム担当者氏名：赤松正規

住 所：〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 185-1

電話番号：088-880-2359

F A X：088-880-2360

E-mail：m-akamatsu@kochi-u.ac.jp, im28@kochi-u.ac.jp

■ 専攻医の募集人数：(15) 人

■ 応募方法：

履歴書を Word または PDF の形式にて、E-mail にて提出すること。

電子媒体でのデータのご提出が難しい場合は、郵送にて提出すること。

・E-mail の場合：kamimura@kochi-u.ac.jp 宛に添付ファイル形式で送信。

その際の件名は、「高知大学精神科専門医研修プログラムへの応募」とする。

・郵送の場合：〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 185-1 高知大学精神科医局研修プログラム統括責任者宛に、ご自身で簡易書留にて郵送すること。また、封筒に「専攻医応募書類在中」と記載する。

■ 採用判定方法：

科長・医局長が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医としての知識・技術・態度を高めることのできるすぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

高知大学医学部精神科は昭和 53 年に講座開設以来 40 年という比較的新しい医局です。一方で初代精神科教授である池田久男が基礎と臨床研究に力を入れ、高知県内全般に精神科医を養成し、ほとんどの精神科病院に医師を派遣しています。また、医局出身者の中には開業をし、現在も市中の臨床現場で活躍している同門も多数育っています。二代目教授である井上新平は統合失調症の臨床研究、特に心理教育に力をいれ、その手法は全国的にも臨床や研究として普及しています。そして大学医局で研修医として研鑽を積んだ同門が全国各地にも広がり、高知大学での臨床研究とその成果は全国的にも広く知られるようになりました。さらに平成 30 年 1 月に新たに数井裕光教授が赴任し、これまでの当大学精神科で培ってきた基礎研究と同時に臨床研究や多施設との交流を更に発展させていこうとしています。

このように臨床から研究に至る幅広い領域において精神医学の発展に大きな功績を残し、現在も日本の精神医療を牽引する存在として、医局員は幅広い領域で活躍しています。

基幹病院となる高知大学の精神科は、大学病院精神科として 30 床のベッドを有し、開放病棟として運用をしています。保護室も有しており、精神科病床としての認可も受けているため、精神保健指定医の取得も可能です。大学病院では 1~2 年間の研修期間中、主として病棟主治医として患者を受け持ち、精神科医として最も重要な基礎的能力を育成します。症例の傾向としては、難治例、身体合併症例などほとんどのケースに対応しており、幅広い研修が可能です。具体的には専攻医は入院患者の主治医となり、上級医の指導を受けながら、看護、心理、リハビリテーションの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、修正型電気療法などの治療を柔軟に組み合わせ最善の治療を行います。研修の過程でほとんどの精神疾患、治療についての基礎的な知識を身につけることが可能です。

また、高知県立あき総合病院、高知医療センター、近森病院といった総合病院精神科、土佐病院、細木ユニティ病院、藤戸病院、海辺の杜ホスピタル、南国病院といった市中精神科病院、一陽病院、芸西病院、清和病院、同仁病院、渡川病院といった僻地を含んだ高知県内すべてをほぼ網羅したエリアの主要医療機関を連携施設として有しており、専攻医はこれらの施設をローテートしながら研鑽を積み、精神科医としての実力を向上させつつ、専門医を獲得することが可能です。さらに、児童思春期では特に発達障害をターゲットにした児童青年期講座（寄付講座）が 2019 年 4 月に講座化しました。そして認知症の専門医療機関、精神保健行政機関、単科精神科病院とも連携しており、希望に応じてこれらの施設での研修を行うことにより、さらに幅広い知識を習得することが可能となります。また 2021 年度からは大阪大学精神科が連携施設として研修可能となり、研修の充実や、高知県では経験できない大都市部の精神医療を経験することが可能となります。精神医学は、極めて幅

広い領域を包含しており、そこには生物学的、心理学的、社会的な次元に加え、実存的・哲学的問題も関与しています。したがって、複雑を極める精神現象を理解して、治療するため、乳幼児から児童・思春期、壮年期、老年期に至る人間のライフステージすべてに研究のメスを入れ、アプローチも脳科学、分子遺伝学、精神病理学、心理学、社会学など多岐に亘る分野です。そのため、当プログラムでは高知大学の同門会にも協力を得て、中身の濃い講義の機会や、国内屈指の講師陣を迎える専門医養成講座もあるため、都市部での研修に決して引けを取らない臨床研修の経験と、専門医となるための学習の場が確保されており、このような多様な臨床経験と、最先端の精神医療を学ぶことが、高知大学精神科の研修プログラムの特色です。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数： 59 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数：20571

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1999	640
F1	403	107
F2	4887	1341
F3	4981	623
F4 F50	3394	244
F4 F7 F8 F9 F50	1631	138
F6	125	50
その他	0	8

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：高知大学病院
- ・施設形態：公的病院
- ・院長名：執印太郎
- ・プログラム統括責任者氏名：數井裕光
- ・指導責任者氏名：赤松正規
- ・指導医人数：(7) 人
- ・精神科病床数：(30) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	277	28
F1	15	3
F2	278	48
F3	503	16
F4 F50	439	36
F4 F7 F8 F9 F50	291	8
F6	17	1
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は613床を有する大規模な病院であり、精神科は30床です。高度専門医療機関として、主に難治性の症例を中心に統合失調症（F2）、気分障害（F3）、神経症性障害（F4）などの治療にあたっている。また思春期症例、認知症、身体合併症治療、リエゾン・コンサルテーションなど精神科臨床を幅広く経験できることも特徴です。特にがん患者の心理社会的問題については、全国トップクラスのがん診療連携拠点病院との合同症例検討会に定期的に参加することで、より深いレベルで多様な経験を積むことが可能です。難治性のうつ病に対する電気けいれん療法も積極的に取り組んでいます。その他には発達障害の診断・療育を専門とするこどものこころ診療部を精神科と小児科と合同で取り組んでおり、世界的にも著明なイエテボリ大学児童精神科、クリストファー・ギルバーク教授の支援を受けた高知ギルバークセンターとの共同研究にも取り組んでいます。地域医療への貢献としては高知県から認知症疾患医療センターの委託を受け、認知症に対する診断、治療、ケアなどの普及啓発活動も行っています。その他、基幹型で習得しにくい措置症例や精神科救急、医療観察法に関する精神科医療は連携施設と協力して経験ができるなど高知大学はほぼ高知県内すべての精神科医療機関と連携をしているため、きめ細やかで、急性期から慢性期にまで至る長い視点での精神科医療やその際に必要な技量を学べる場所であると言えます。また最先端の知識を獲得するため、全国一流の研究者を招聘し、定期的に講義を開催し学習機会を既に20年近く確保しており、専門医になってからの活躍の場を広げることができる研修環境であることも特徴です。

病院ホームページ URL : <http://www.kochi-ms.ac.jp/~hsptl/>

精神科ホームページ URL : http://www.kochi-ms.ac.jp/~fm_nrpsy/index.htm

B 研修連携施設

① 施設名：土佐病院

- ・施設形態：精神科単科病院
- ・院長名：須藤康彦
- ・指導責任者氏名：岡村佳代子
- ・指導医人数：(5) 人
- ・精神科病床数：(180) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	44	22
F1	117	42
F2	845	213
F3	231	40
F4 F50	159	26
F4 F7 F8 F9 F50	4	0
F6	19	5
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、昭和 8 年に高知市中央圏に開設された中核病院であり、昭和 53 年に大学病院が開設される以前から、高知県内の精神科医養成を行ってきた教育病院である。現在、180 床を有する単科精神科病院となり、県内で平日精神科救急に 20 年来取り組む地域の基幹病院である。また 30 年以上、高知大学精神科の学生実習協力病院であり、これまで一貫して医学部学生から専攻医までの精神科臨床の実習教育の経験がある施設である。そのため、統合失調症を中心とする超急性期、急性期、慢性期という病態別の治療と、精神科リハビリテーションに関する研修が充実している。さらに精神科救急を担っていることから、統合失調症のみならず、種々の精神疾患を豊富に経験できる。また医療観察法に関する認定施設であり、アルコール依存症の治療にも取り組んでいる。

研修実績 2020 年度 1 名

病院ホームページ URL：<http://www.tosa-hp.com/>

② 施設名：高知県立あき総合病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：前田博教
- ・指導責任者氏名：峯瀬正祥
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(90) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	178	27
F1	13	4
F2	309	108
F3	228	27
F4 F50	205	9
F4 F7 F8 F9 F50	79	5
F6	3	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は公的病院としては比較的珍しい 90 床の精神科ベッドを持つ総合病院です。高知県唯一の県立病院精神科であり、難治症例や処遇困難例を多く引き受けています。総合病院にあるため、多くの身体合併症治療の経験をすることができます。また、リエゾンチームを率いて、身体科での精神障害の相談業務や治療に参加できます。平成 28 年度より、一般病院連携精神医学専門研修プログラムに参加予定です。

高知県東部地域の精神科救急医療も可能な限り対応しております。措置入院患者の受け入れも行っています。医療観察法鑑定入院や通院処遇対象者の治療を引き受けています。認知症疾患医療センター地域型を有し、専門的な治療、教育、地域への宣伝活動などを行っています。小児科と共同で児童症例を見ることもあります。

まとめると、難治性の症例を中心に統合失調症（F2）、気分障害（F3）、神経症性障害（F4）などの治療にあたっている以外に、認知症、身体合併症治療、リエゾン・コンサルテーションなど精神科臨床を幅広く経験できることが特徴です。

研修実績 2019-2020 年度 1 名

病院ホームページ URL : <http://www.pref.kochi.lg.jp/aki/>

③ 施設名：高知医療センター

- ・施設形態：公的総合病院精神科
- ・院長名：小野憲昭
- ・指導責任者氏名：澤田健
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(44) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	55	16
F1	8	9
F2	16	24
F3	59	17
F4 F50	78	14
F4 F7 F8 F9 F50	123	20
F6	0	0
その他	0	3

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

県の高度医療、救急医療を担う公的総合病院であり、44床の精神科病棟を有するリエゾン精神医学の症例が豊富で、入院に伴い新しく発症した精神障害を診療することも多い。もともと精神障害を有していた患者の身体合併症の治療にも取り組んでいる。児童精神科では外来診療のみでなく、入院診療も行っており、掘り下げた児童思春期医学の研修を行うことができる。

2019年度 1名 2020年度 1名 2021年度 1名

病院ホームページ URL：<http://www2.khsc.or.jp/>

④ 施設名：一陽病院

- ・施設形態：精神科単科病院
- ・院長名：諸隈陽子
- ・副プログラム責任者氏名：諸隈陽子
- ・指導責任者氏名：諸隈陽子
- ・指導医人数：(2) 人

- ・精神科病床数：(218) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	276	193
F1	23	13
F2	231	109
F3	404	64
F4 F50	364	4
F4 F7 F8 F9 F50	0	19
F6	1	3
その他	0	1

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

地域密着型の単科精神科病院であるが、2次医療県内唯一の入院病床を持つ僻地医療の中心的役割を担う施設です。新規初診患者は認知症患者さんが増加していますが、全体としては統合失調症の患者さんの比率が多く、高齢化した統合失調症患者さんの薬物治療の他、心理教育や地域移行のためグループホームも併設しており、社会復帰プログラムも充実しています。また、僻地の総合病院へのリエゾン対応も多く、総合的な精神科研修が可能です。またH26年度から県から認知症患者医療センター（地域型）を委託され、認知症患者を含めた精神科患者のアウトリーチや訪問看護も積極的に行っている。

病院ホームページ URL：<http://www.ichiyo-hp.jp/>

⑤ 施設名：近森病院

- ・施設形態：総合病院精神科
- ・院長名：近森正幸
- ・指導責任者氏名：戎 正司
- ・指導医人数：(4) 人 《常勤3名 非常勤1名》
- ・精神科病床数：(60) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	49	17
F1	30	9
F2	504	66
F3	908	76
F4 F50	434	64
F4 F7 F8 F9 F50	121	10
F6	19	15
その他	23	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

県中央部に位置し、ヘリポート施設を備えた救命救急センターをもつ総合病院の中の精神科です。当施設では救命救急センターを併設していることから急性期の精神科患者さんから働く人のためのうつ病の社会復帰プログラムに特化したデイケアを運営するなど急性期から回復期までまんべんなく精神科患者さんの治療場面の研修が可能です。また、総合病院という意味からリエゾン対応も多く、多職種連携やチーム精神医療の素養を涵養することでこれまで多くの実績があります。また、院内での各種勉強会や学術講演会の開催も多く、学術的な支援も豊富であり実り豊かな精神科研修が可能です。

病院ホームページ URL : <http://www.chikamori.com/>

⑥ 施設名：細木病院 こころのセンター

- ・施設形態：総合病院（精神科）
- ・院長名：深田順一
- ・指導責任者氏名：吉岡隆興
- ・指導医人数：（2）人
- ・精神科病床数：（141）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	490	60
F1	40	8
F2	505	131
F3	355	62
F4 F50	288	65
F4 F7 F8 F9 F50	45	4
F6	0	8
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当施設は、456床を有する総合病院で、その内、精神科は141床です。

訪問看護ステーション、精神科デイケア、重度認知症患者デイケアなどを併設し、地域移行や精神科リハビリテーションなどの社会復帰プログラムが充実する。また、精神科医師や看護師などの従来の精神科スタッフ以外に、内科医師、歯科医師、理学療法士、言語聴覚士、放射線技師、社会福祉士、歯科衛生士、音楽療法士、医療秘書、診療情報管理士などのスタッフも存在し、学術的多職種連携によるチームで、身体合併症をもつ精神科患者のケアを実践する。なお、精神科患者の病態は、児童思春期から認知症まで、様々な精神科疾患を全般的に網羅した研修が可能です。

2019, 2020年度 1名

病院ホームページURL：<http://www.h-unity.com/>

⑦ 施設名：芸西病院

- ・施設形態：精神科単科病院
- ・院長名：岩村 久
- ・指導責任者氏名：野瀬清一郎
- ・指導医人数：(2)人
- ・精神科病床数：(171)床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	85	27

F1	20	2
F2	120	77
F3	105	6
F4 F50	95	1
F4 F7 F8 F9 F50	65	3
F6	2	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

内科を併設した精神科病院であり、身体合併症をもつ高齢者の入院も多い。指導医として精神分析的な精神療法を指導することが可能であり、じっくりとした研修が保障されている。また、併設する老人保健施設、精神科訪問看護、グループホームなど多職種連携や地域精神医療の研修の機会が非常に多く、看護部門は県内有数の精神科専門看護師数を誇る。したがって研究発表や、院内研究会、研修会が充実しており幅広い臨床研修と併せて、臨床研究も活発に行っていることが特徴である。

病院ホームページ URL : <http://okura-kai.com/geisei/>

⑧ 施設名：海辺の杜ホスピタル

- ・施設形態：精神科単科病院
- ・院長名：岡田和史
- ・指導責任者氏名：岡田和史
- ・指導医人数：(4) 人
- ・常勤医人数：(7) 人（内、精神保健指定医 5 人）、非常勤医人数：(4) 人
- ・精神科病床数：(380) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	293	74
F1	84	25
F2	328	84
F3	240	56
F4 F50	425	29
F4 F7 F8 F9 F50	262	19

F6	12	0
その他	35	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

県内有数のベッド数の単科精神科病院であり、サテライトの棧橋みどりクリニックと精神科訪問看護ステーションを同じ法人内に持っている。地域移行や精神科リハビリテーションに積極的な活動を行っており、家族心理教育やアルコール依存症治療、種々のグループ活動にも力を入れている。外来では児童思春期症例にも対応している。医療観察法の指定通院医療機関であり、また、鑑定入院例もあることから司法精神医学の分野も学ぶことができる。

病院ホームページ URL：<http://umibeno-mori.com/>

⑨ 施設名：南国病院

・施設形態：精神科一般病院

・院長名：中澤宏之

・指導責任者氏名：中澤宏之

・指導医人数：(2) 人

・精神科病床数：(60) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	55	39
F1	19	2
F2	258	40
F3	256	27
F4 F50	230	3
F4 F7 F8 F9 F50	97	9
F6	4	1
その他	0	13

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

精神疾患全般を扱っているが、認知症を含む器質性精神障害、老年期精神障害、児童思春期の指導体制が充実している。また脳神経内科専門医が2名常勤し脳神経内科専門の病棟を持っているため、神経症状を伴う精神疾患の症候学や診断学も学ぶことができる。医局の勉強会、症例検討会は脳神経内科、内科と合同で開

催し他科との連携や幅広い情報提供に努めている。また、託児所（法人内保育園）を完備し女性医師の勤務環境への配慮や就労支援について積極的に取り組んでいる。

病院ホームページ URL : <http://www.nankoku-hp.or.jp/>

⑩ 施設名：藤戸病院

- ・施設形態：精神科単科病院
- ・院長名：橋詰 宏
- ・指導責任者氏名：橋詰 宏
- ・指導医人数：(3) 人
- ・精神科病床数：(80) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	40	10
F1	20	5
F2	560	120
F3	600	100
F4 F50	600	40
F4 F7 F8 F9 F50	120	20
F6	30	20
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

市中にある単科精神科病院です。これまで当施設は児童思春期症例を積極的に治療しており、県下的にも非常に児童思春期の症例数が経験できます。また精神障害者で働く人のための夜間診療も先進的に取り組んでおり、産業精神保健などの領域も多数経験できます。また、高知大学から非常勤医師として児童思春期の専門医 2 名が勤務しているため、指導医からの指導以外にも研究指導や症例検討会など活発な活動が可能です。

病院ホームページ URL : <http://www.fujito-hsp.or.jp/>

⑪ 施設名：清和病院

- ・施設形態：精神科単科病院
- ・院長名：近藤近江
- ・指導責任者氏名：山内祥豪
- ・指導医人数：(4) 人
- ・精神科病床数：(271) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	275	80
F1	77	10
F2	183	110
F3	376	44
F4 F50	199	4
F4 F7 F8 F9 F50	44	5
F6	1	0
その他	0	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

高知県中西部の中核病院であり、特にうつ病の電気けいれん療法は大学病院以外では当施設しか施行していないため、重混迷や自殺企図を伴う急性期のうつ病治療を積極的に行っている。また地域の精神科中核病院であり、デイケアなどの社会復帰や地域精神医療を担っておる観点から、回復期から慢性期の精神障害者のリハビリテーションの研修が充実しています。大学病院から非常勤として教官が勤務しており、家族心理教育を積極的に行っていることから、研究活動もやる気次第で限りなく可能な環境です。また、院長が外科医ということもあり、身体合併症を持つ精神障害者の身体疾患も行っており、地域連携、病病、病診連携を通じた精神科リエゾン活動や合併症治療も多数経験できます。

病院ホームページ URL：<http://www.seiunkai.com/>

⑫ 施設名：同仁病院

- ・施設形態：精神科単科病院
- ・院長名：山下元司

- ・指導責任者氏名：山下元司
- ・指導医人数：(3) 人
- ・精神科病床数：(214) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	130	77
F1	5	1
F2	326	129
F3	536	72
F4 F50	116	26
F4 F7 F8 F9 F50	67	14
F6	3	1
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は昭和36年に開設された精神科を中心とした地域の中核病院です。常勤内科医師が勤務しており身体疾患の治療や、精神障害者の身体合併症の治療を行なうことが出来ます。精神疾患の中では気分障害、器質性精神障害、統合失調症の患者を多く治療しています。検査機器として1.5t MRI, 16列X線CTを備えており、器質性精神障害や身体疾患の診断を行うことが出来ます。デイケア、ナイトケア、グループホーム運営など外来診療、リハビリテーションにも力を入れています。地域包括支援センターや老人施設等と連携した診療活動も行っています。

病院ホームページ URL：<http://doujin-hp.or.jp>

⑬ 施設名：渡川病院

- ・施設形態：精神科単科病院
- ・院長名：吉本啓一郎
- ・指導責任者氏名：吉本啓一郎
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(180) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	532	108
F1	27	17
F2	367	75
F3	419	87
F4 F50	198	1
F4 F7 F8 F9 F50	251	6
F6	2	0
その他	11	24

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

高知県西南部の中核病院であり、地域型認知症疾患センターを併設しています。認知症をはじめとする高齢者の他にも、慢性期の統合失調症のデイケア活動や、ASD 専門プログラムを四国で最初に取り入れるなど、発達障害のリハビリテーションにも取り組み、地域において幅広い精神医療を担っています。身体合併症を持つ精神障害者の応需や、精神科訪問看護活動も精力的に行っており地域リハビリテーションの研修が充実しています。また昨年からは「高知県子どもの心の診療ネットワーク事業」にも協力し、幡多地域の児童のメンタルケアにも取り組んでいます。

病院ホームページ URL : <http://watarigawa.com/>

⑭ 施設名：大阪大学医学部附属病院精神科

- ・施設形態：公的病院
- ・院長名：木村 正
- ・プログラム統括責任者氏名：池田 学
- ・指導責任者氏名：田上 真次
- ・指導医人数：(15) 人
- ・精神科病床数：(52) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	250	71
F1	33	2

F2	437	74
F3	502	71
F4 F50	477	23
F4 F7 F8 F9 F50	308	2
F6	54	1
その他	27	24

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

大阪大学精神医学教室は講座開設以来 120 年を超える歴史と伝統をもち、臨床から研究に至る幅広い領域において精神医学の発展に大きな功績を残してきた。現在も日本の精神医療を牽引する存在として、医局員は幅広い領域で活躍している。基幹病院となる大阪大学医学部附属病院 神経科・精神科は、52 床のベッドを有し、閉鎖病棟（38 症）、開放病棟（14 床）、隔離室（4 床）、と十分なスペースを確保しており、統合失調症およびうつ病などの難治症例、身体合併症例などほとんどのケースに対応している。また、認知症の専門的な診断についても幅広く対応している。専攻医は入院患者の主治医となり、指導教官の指導を受けながら、看護、心理、リハビリテーションの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、適切な診断のうえで、薬物療法、精神療法、修正型電気痙攣療法などの治療を柔軟に組み合わせ最善の治療を行うことになる。研修の過程でほとんどの精神疾患の診断と治療についての基礎的な、そして実践的な知識を身につけることが可能である。

また、大阪急性期・総合医療センター、大阪市立総合医療センター、大阪医療センター、箕面市立病院、市立豊中病院、大阪警察病院、住友病院、日本生命病院、地域医療機能推進機構大阪病院（JCHO 大阪病院）、関西労災病院、といった近畿圏の主要な総合病院を連携施設として有しており、身体合併症を有する精神疾患およびリエゾン精神医学を中心とした精神医療の研鑽を行うことが可能である。さらに、大阪府立精神医療センター、浅香山病院、榎坂病院、清風会茨木病院、箕面神経サナトリウム、ためなが温泉病院、阪和いずみ病院、和泉丘病院、大阪さやま病院、小阪病院、国分病院、美原病院、水間病院、吉村病院、七山病院、やまと精神医療センターといった近畿圏の主要な単科精神病院を連携施設として有しており、地域の精神医療、司法精神医学、児童精神医療、地域型認知症センターにおける精神科臨床などの研鑽を行うことが可能である。専攻医はこれらの施設をローテートしながら、臨床精神科医として幅広い能力を向上させつつ、専門医を獲得することが可能である。

精神医学は、今まで心の科学、脳神経科学の進歩に伴い、生物学的理解が著しく進歩したと考えられるが、大阪大学精神医学教室は第一にこのような先端の自然科学的知識を大切に考えており、専攻医に対しては例えば認知症の診断の進歩、精神医学における分子生物学的損保などを含めた新しい知識の共有と理解に務め

たいと考えている。さらに、精神医学は極めて幅広い領域を包含しており、そこには生物学的、心理学的、社会的な次元に加え、実存的・哲学的問題も関与している。大阪大学精神医学教室では精神医学の核となる精神病理学的知識を背景とした議論を行い、そもそもの人間存在に対する理解を深化させるべく努めたいと考えている。つまり、自然科学的・生物学的な理解と、人文科学的・精神病理学的理解と、およびその他のアングルとから脳と心にアプローチすることを経験することで、幅広く深みのある精神科医を育成したいと考えている。その結果として、乳幼児から児童・思春期、壮年期、老年期に至る人間のライフステージすべてにおいて包括的な理解を深め、精神科医として質の高い臨床能力を培っていただくことが可能と考えている。

病院ホームページ URL : <http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/>

精神科ホームページ URL : <http://www2.med.osaka-u.ac.jp/psy/training/specialist/>

3. 研修プログラム

全体的なプログラム

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得します。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要があり、1. 患者及び家族との面接、2. 疾患概念の病態の理解、3. 診断と治療計画、4. 補助検査法、5. 薬物・身体療法、6. 精神療法、7. 心理社会的療法など、8. 精神科救急、9. リエゾン・コンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11. 災害精神医学、12. 医の倫理、13. 安全管理などです。年次毎のおおよその到達目標は以下の通りです。

1) 年次到達目標

到達目標

1 年目：基幹病院または連携病院で指導医の指導のもと統合失調症、気分障害、不安症、認知症などの、主に入院患者を受け持ち、精神症状評価、診断と治療計画の策定を通して精神療法と薬物療法を両軸とした精神科治療の基本を習得する。実際の面接についてスーパーヴァイズを受け良好な治療関係を構築し、維持する力を養うと共に、より正確な診断/見立てにつなげる能力を養う。認知行動療法、精神分析や緩和ケアの研修会/カンファレンスへの参加を通してサブスペシャリティ領域について学ぶことも可能である。また、多職種間のカンファレンスを通してチーム医療に対する基本的姿勢や素養を身につける。

2 年目：基幹病院または連携病院で、指導医のサポートのもとで自立して患者との面接を行い、診断と治療計画の策定が出来る能力の充実とより深い薬物療法の知識を習得する。また児童思春期症例、種々の依存症や摂食障害など、よりマネジメントの難しい症例の治療やリハビリテーションに関わる。さらに精神科救急では、連

携病院の精神科救急を経験し、超急性期対応から安定化期、安定期、回復期に至るプロセスを学ぶ。

3年目：指導医から自立し、入院治療に加えて外来治療を本格的に開始し、多職種間連携、心理社会的介入を通じた精神科患者の生活をサポートする方略を策定できることを目指す。認知行動療法や力動的療法を上級者の指導の下に実践する。連携病院はより幅広い選択肢の中から専攻医の志向を考慮して選択し、リワークを含む精神科リハビリテーションプログラム、地域精神医療等の幅広い視野をもつことを目標とする。その上で、精神科分野の専門医の素養を学ぶ総まとめを行いながら精神科専門医を目指し、専門医試験の準備に取り組むことを学ぶ。

2) 研修カリキュラムについて

専攻医研修マニュアル（別紙）、研修記録簿（別紙）を参照

3) 個別項目について

① 理論性・社会性

基幹施設において他科の専攻医とともに研修会が実施される。コンサルテーションリエゾンを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

② 学問的姿勢

すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や学内誌などへの投稿を進める。

③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾン・コンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

④ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設において臨床研究、基礎研究に従事しその成果を学会や論文として発表する。

⑤ 自己学習

DVD や各種精神医学に関連する専門書などをもとに自己学習を行う。

4) ローテーションモデル

原則的には1年目に基幹病院である大学病院をローテートし、精神科医としての基

本的な知識を身につけます。2～3年目には総合病院精神科（高知医療センター，高知県立あき総合病院、近森病院）、単科精神科病院（土佐病院、細木ユニティ病院、芸西病院、藤戸病院、一陽病院、清和病院、海辺の杜ホスピタル、南国病院、同仁病院、渡川病院）を各1年ずつローテートし、身体合併症治療、難治・急性期症例、児童症例、認知症症例を幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていきます。これら3年間のローテート先や順番については、本人の希望に応じて柔軟な対応が可能です。

そして、特徴の一つには国立大学法人大阪大学医学部附属病院精神科の連携施設としての研修が可能となります

なお、今回記載した連携施設以外に本人の希望に応じて、多彩なローテートパターンが可能です。この場合、1・2年目に基本となる基幹病院、総合病院、単科精神科病院の中から2ヶ所を各1年ずつ、3年目は、上述の専門機関の中から本人の志向にあわせた研修先を選定するなど、主なローテーションパターンについて、下記参考資料1に示しています。

5) 研修の週間・年間計画
下記参考資料2を参照。

4. プログラム管理体制について

・プログラム管理委員会

- 委員長 医師：赤松正規・高知大学精神科（助教）
- 医師：高橋秀俊・高知大学精神科（特任教授）
- 医師：樫林哲雄・高知大学精神科（講師）
- 医師：藤戸良子・高知大大学精神科（助教）
- 医師：掛田恭子・高知大学精神科（学内講師）
- 医師：上村直人・高知大学精神科（講師）
- 大学病院精神科看護師長：小笠原麻紀
- 大学病院精神保健福祉士（精神担当）：岡崎知裕
- 医師：諸隈陽子・一陽病院（院長）
- 医師：峯瀬正祥・高知県立あき総合病院精神科（医長）
- 医師・岩村久・芸西病院（院長）
- 医師：中澤宏之・南国病院（院長）
- 医師：戎正司・近森病院総合心療センター（センター長）
- 医師：澤田健・高知医療センターこころのサポートセンター（センター長）
- 医師：岡村佳代子・土佐病院
- 医師：吉岡隆興・細木病院精神科こころのサポートセンター（センター長）
- 医師：山内祥豪・清和病院（医師）

- 医師：橋詰宏・藤戸病院（院長）
- 医師：岡田和史・海辺の杜ホスピタル（院長）
- 医師：同仁病院：山下元司
- 医師：渡川病院：吉本啓一郎
- 医師：田上 真次 大阪大学医学部精神科（講師）

- ・プログラム統括責任者

数井裕光

- ・連携施設における委員会組織

各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

高知大学医学部附属病院：赤松正規
土佐病院：岡村佳代子
高知医療センターこころのサポートセンター：澤田健
高知県立あき総合病院：峯瀬正祥
芸西病院：岩村久
南国病院：中澤宏之
一陽病院：大石りさ
近森病院：戎正司
細木病院精神科：吉岡隆興
海辺の杜ホスピタル：岡田和史
藤戸病院：橋詰宏
清和病院：山内祥豪
同仁病院：山下元司
渡川病院：吉本啓一郎
大阪大学医学部附属病院：田上真次

2) 専攻医の評価時期と評価方法

- ・ 3 ヶ月ごとにカリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認しその後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・ 研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ 6 ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・ 1年後に 1 年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。また、その結果を統括責任者に提出

する。

- ・その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。
- ・研修終了時の専攻医の評価項目、基準、時期については、専攻医研修マニュアルを用いて、研修終了時に習得すべき疾患群毎の症例数などを最終年度にプログラム委員会で評価し、精神科専門医としてふさわしいかの判定を行い研修終了の可否を決定する。
- ・評価方法
A:優れている B:十分 C:ふつう D:やや不十分の4段階で指導医が評価する。
研修達成度は研修群の指導医で構成されるプログラム管理委員会で3ヶ月ごとに行い、年度ごとに次年度の目標や課題を指導医と協議する。

3) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価方法と評価時期については、アンケートによる指導医の評価を各年度毎に行い、研修プログラム委員会で指導医にフィードバックを行う。評価は、A:十分指導を受けている、B:標準的な指導を受けている、C:標準以下の指導体制である、D:指導は不十分である、の4段階で行う。

3) 研修時に則るマニュアルについて

専攻医研修マニュアル（別紙）、研修記録簿（別紙）をもとに研修を行う。

6. 全体の管理運営体制

1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

各施設の労務管理基準に準拠する。

2) 専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する。

3) プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

4) FDの計画・実施

年1回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。

プログラム問い合わせ先

プログラム担当者氏名：赤松正規（あかまつ まさのり） 高知大学医学部精神科

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 185-1

電話番号： 088-880-2359

F A X： 088-880-2360

E-mail： m-akamatsu@kochi-u.ac.jp, im28@kochi-u.ac.jp

参考資料1：研修ローテートとキャリアアップ

高知大学 精神科 後期研修・専門医プログラム

	モデル1 県立あき	モデル2 高知医療センター	モデル3 土佐病院・うみべの杜	モデル4 芸西・岡仁
1年目	高知大学医学部附属病院 神経精神科			
2年目	県立あき	高知医療センター	土佐病院・うみべの杜	芸西・岡仁
3年目	高知医療センター	県立あき	市中病院かSEED病院	藤戸・細木
4年目	大学病院など精神保健指定医、専門医試験の準備や後輩の指導役、サブスペのコースの検討			

- 13の連携施設があります 今後県外でも研修が可能となります
- 上記モデル以外にも多様な研修プログラムがあります 地域枠優先コース
- 例 ①: 公立病院・精神科救急病院、依存症専門など、大学院(社会人)
②県外 大阪大学精神科との連携プログラム

年間予定

基幹型施設 高知大学医学部精神科 年間予定表

	臨床	教育	研修・研究発表
4月	研修オリエンテーション		高知県精神医学会
5月		医療再生事業(精神科医養成)講義	
6月	ピアレビュー・指導医との面談(1)	医療再生事業(精神科医養成)講義	日本精神神経学会 日本老年精神医学会
7月		医療再生事業(精神科医養成)講義	
8月		医療再生事業(精神科医養成)講義	高知県医師会学会・ 日本うつ病学会
9月	ピアレビュー・指導医との面談(2)	医療再生事業(精神科医養成)講義	日本児童青年期精神医学会・日本生 物学的精神学会・日本神経心理学
10月		医療再生事業(精神科医養成)講義	日本臨床精神薬理学会
11月		医療再生事業(精神科医養成)講義	中国四国精神神経学会 日本総合病院精神医学会
12月	ピアレビュー・指導医との面談(3)	医療再生事業(精神科医養成)講義	高知県精神科集談会
1月		医療再生事業(精神科医養成)講義	
2月		医療再生事業(精神科医養成)講義	
3月	ピアレビュー・指導医との面談(4) 総括と次年度の研修内容決定		日本社会精神医学会
厚労省や国立センター開催の研修会参加は、プログラム委員会で決定し参加を検討			

週間予定表

B 研修連携施設

①医療法人須藤会 土佐病院

	8:30 ～9:00	午前	13:00 ～13:30	午後	17:00 ～18:00
月	入退院患者紹介・連絡会	病棟・外来業務 (病棟カンファレンス)	〔院内会議・研修会〕	病棟・外来業務	医局会
火		病棟・外来業務			(講義)
水					
木					
金		病棟・外来業務 (病棟カンファレンス)	13:15 ～13:45 第4 院内症例 検討会		

年間予定表

B 研修連携施設

①医療法人須藤会 土佐病院

	行事
4月	オリエンテーション 高知県精神科医会
5月	
6月	日本精神神経学会 日本老年精神医学会
7月	
8月	高知県医師会学会 日本うつ病学会
9月	日本児童青年期精神医学会 日本生物学的精神学会
10月	日本臨床精神薬理学会 日本精神科救急学会
11月	中国四国精神神経学会
12月	高知県精神科集談会
1月	
2月	
3月	日本社会精神医学会 統括・次年度の研修内容決定

週間予定表

B 研修連携施設

②高知県立あき総合病院

	月	火	水	木	金
8:30-9:00			医局会		
9:00-12:00	新患患者 外来業務	院外研修	新患患者 外来業務	外来 デイケア	病棟業務 外来業務
13:00-17:15	病棟業務	院外研修	病棟業務	病棟業務	病棟業務
17:15-	保健所とのカン ファレンス		症例検討会		院外勉強会 参加

年間予定表

B 研修連携施設

②高知県立あき総合病院

	行事
4月	オリエンテーション
5月	高知県精神科医会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	日本総合病院精神医学会総会参加
12月	高知県精神科集談会参加・演題発表
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成 統合失調症学会への参加・演題発表

週間予定表

B 研修連携施設

③高知医療センター

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	病棟申送	病棟申送	病棟申送	病棟申送	病棟申送
9:00-12:00	外来業務	病棟業務	外来業務	病棟業務	病棟業務
12:00-12:30			勉強会		
13:00-17:00	病棟業務	リエゾン	大学研修	病棟業務 16:00-17:00 ケース検討会	リエゾン

年間予定表

B 研修連携施設

③高知医療センター

	行事
4月	オリエンテーション 高知県精神科医会参加
5月	
6月	日本精神神経学会参加 日本老年精神医学会 随意参加
7月	
8月	研修医サマーキャンプ
9月	
10月	
11月	中国四国精神神経学会・精神保健学会参加・演題発表 日本認知症学会 随意参加
12月	高知県精神科医会集談会参加・発表
1月	日本社会精神医学会 随意参加
2月	高知医療センター学術集会で発表
3月	研修プログラム評価報告書の作成

週間予定表

B 研修連携施設

④医療法人南江会 一陽病院

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	病棟	外来	病棟
午後	病棟	認知症疾患医療センター ケースカンファレンス	医局会 診療会議	デイケア	研修日

年間予定表

B 研修連携施設

④医療法人南江会 一陽病院

	行事
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会総会

	日本老年精神医学会総会
7月	高幡保健所嘱託医相談会
8月	
9月	
10月	高幡保健所嘱託医相談会
11月	中国四国精神神経学会
12月	高知県精神科医会集談会・演題発表
1月	高幡保健所嘱託医相談会
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

*年3回；保健所業務研修

週間予定表

B 研修連携施設

⑤社会医療法人近森会 近森病院

	月	火	水	木	金
午前	・モーニング カンファレンス ・病棟診察	・モーニング カンファレンス ・外来診察	・モーニング カンファレンス ・外来診察	・モーニング カンファレンス ・外来診察	・モーニング カンファレンス ・新患外来診察
午後	・外来診察 ・病棟カンファレンス	・病棟診察 ・病棟カンファレンス	・院外専門研修	・新患外来診察 ・診療会議	・治療グループ ・病棟診察
17:15～	・研修会 (事例検討会等)				

年間予定表

B 研修連携施設

⑤社会医療法人近森会 近森病院

	行事
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会
7月	
8月	近森会学術集会
9月	

10月	日本精神科救急学会
11月	中国・四国精神神経学会
12月	高知県精神科集談会・演題発表
1月	
2月	近森病院精神科ケース報告会
3月	研修プログラム評価報告書作成

週間予定表

B 研修連携施設

⑥社会医療法人仁生会 細木病院

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
AM 8:30~12:30	8:30~9:00 病棟申送り	8:30~10:00 症例カンファレンス	8:30~10:00 病棟申送り 病棟カンファレンス	8:30~9:00 病棟申送り	8:30~9:00 病棟申送り	9:00~12:30 外来診療(第1-3週)	8:30~翌8:30 不定期 に当直
	9:00~12:30 病棟回診 病棟業務 書類作成	10:00~12:30 病棟回診 病棟業務 書類作成	10:00~11:00 精神科デイケア回診	9:00~12:30 病棟回診 病棟業務 書類作成	9:00~12:30 病棟回診 病棟業務 書類作成		
12:30~13:30	12:30~13:30 昼休憩	12:30~13:30 昼休憩	12:30~13:30 昼休憩	12:30~13:30 昼休憩	12:30~13:30 昼休憩	12:30~13:30 昼休憩	
PM 9:00~12:30	13:30~15:30 認知症ケア チームラウンド	14:30~17:30 病棟回診 病棟業務 書類作成	13:30~17:30 外来診察	13:30~14:30 精神科デイケア回診	13:30~17:30 外来診察		
	15:30~17:30 病棟回診 病棟業務 書類作成			13:30~17:30 病棟回診 病棟業務 書類作成			
	17:30~翌8:30 当直				17:30~ 症例検討会	17:30~翌8:30 当直(不定期)	

※月1回に開催される①第1火曜日12:30から、全体医局会②第2火曜日12:30から、こころのセンター医局会③第3火曜日17:00から、診療運営会議
④第4火曜日12:30から、院内行動最小限委員会+こころのセンター幹部会

年間予定表

B 研修連携施設

⑥社会医療法人仁生会 細木病院

	研修会	教育
4月	研修オリエンテーション	
5月	高知県精神科医会参加	症例検討会
6月	日本精神神経学会学術総会参加	症例検討会
7月		症例検討会
8月		症例検討会
9月		症例検討会
10月		症例検討会
11月	日本総合病院精神医学会総会参加	症例検討会
12月	高知県精神科集談会参加	症例検討会
1月		症例検討会
2月		症例検討会
3月	研修プログラム評価報告書作成	

週間予定表

B 研修連携施設

⑦医療法人おくら会 芸西病院

	午前	午後	夜間
月	病棟、デイケア	病棟（精神療養病棟）	当直
火	病棟、保護室回診	病棟（集団精神療法）	
水	藤戸病院	藤戸病院	
木	病棟、介護老人保健施設	病棟（認知症治療病棟）	
金	外来（初診、再診）	外来（初診、再診）	

年間予定表

B 研修連携施設

⑥医療法人おくら会 芸西病院

	行事
4月	
5月	高知県精神科医会学術講演会 日本精神神経学会
6月	
7月	
8月	
9月	高知県精神科医会学術講演会
10月	
11月	高知県精神科医会学術講演会 みずき研究大会
12月	
1月	
2月	高知県精神科医会学術講演会
3月	

週間予定表

B 研修連携施設

⑧医療法人精華園 海辺の杜ホスピタル

	月	火	水	木	金	土(隔週)
8:30-9:00	病棟申し送り参加					
9:00-12:15	病棟業務	外来業務	研修講義 受講	院外業務	病棟業務	外来業務 病棟業務
13:15-17:00	病棟業務	外来業務	グループワー ク参加	外来業務	病棟業務	
16:30-18:00 水曜日のみ			医局会 (症例検討会)			

年間予定表

B 研修連携施設

⑧医療法人精華園 海辺の杜ホスピタル

	行事
4月	オリエンテーション 研修医グランドラウンド
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加(任意) 日本心身医学会総会参加(任意)
7月	精神療法院内事例検討会
8月	
9月	日本生物学的精神医学会参加(任意) 日本児童青年精神医学会総会参加(任意)
10月	日本臨床精神神経薬理学会参加(任意)
11月	日本総合病院精神医学会参加(任意) 中国四国精神神経学会参加(任意)
12月	精神療法院内事例検討会
1月	
2月	日本不安症学会参加(任意)
3月	研修プログラム評価報告書の作成 日本統合失調症学会参加(任意)

上記学会は、年、状況により変更あり

毎月第三火曜 院内研修会参加

週間予定表

B 研修連携施設

⑨医療法人つくし会 南国病院

	月	火	水	木	金
8:30 ～ 9:00	精神科病棟 カンファレンス	精神科病棟 カンファレンス	精神科病棟 カンファレンス	精神科病棟 カンファレンス	精神科病棟 カンファレンス
9:00 ～9:20	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	ベッドコントロ ールカンファレ ンス
9:20～ 12:00					病棟業務
13:00 ～ 17:00	病棟業務 (15:30 から 16:00 多職種カン ファレンス)	外来	外来	病棟業務	病棟業務
17:00 ～ 17:30				医局症例検討会 <月に一回>	

上記以外に、13時00分～13時30分まで医療安全管理委員会、院内感染対策委員会、褥瘡対策委員会倫理委員会、薬事審査委員会を月に一回ずつ行い、16時30分～17時00分まで行動制限最小化委員会、精神科リハビリテーション連絡会議・症例検討会、医局会もそれぞれ月一回開催する。

年間予定表

B 研修連携施設

⑨医療法人つくし会南国病院

	行事
4月	初任者研修 オリエンテーション
5月	年に4回開催される高知県精神科医会参加
6月	
7月	
8月	
9月	日本精神神経学会参加
10月	その他の専門的な学会参加
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	統括的評価 研修プログラム評価報告書作成

週間予定表

B 研修連携施設

⑩医療法人おくら会 藤戸病院

	午前	午後	夜間
月	病棟(精神科急性期治療病棟)	外来(初診、再診)	
火	病棟(精神療養病棟)	外来(初診、再診)	
水	外来(初診、再診)	病棟(精神療養病棟) 保護室回診	いずれかで当直1回
木	病棟(精神科急性期治療病棟)	病棟(精神療養病棟)	
金	病棟(精神療養病棟) 保護室回診	外来(初診、再診)	

年間予定表

B 研修連携施設

⑩医療法人おくら会 藤戸病院

毎週 火・金 8:30~9:00	全体会(ベッドコントロール、患者状況報告)
第1火曜日	感染対策委員会
第3水曜日	4C(Community Care Case Conference)
第3金曜日	医局連絡会
第4月曜日	医療安全管理委員会
第4水曜日	地域移行推進委員会

○ 院外研修会等

高知県精神科医学学術講演会 (5月、9月、11月、2月)

日本精神神経学会 (5月)

週間予定表

B 研修連携施設

⑪医療法人青雲会 清和病院

	月	火	水	木	金
午前	外来業務	外来業務	外来業務	院外研修	病棟業務
午後	病棟業務	往診 / 病棟	新患患者	院外研修	往診

年間予定表

B 研修連携施設

⑪医療法人青雲会 清和病院

	行事
4月	オリエンテーション
5月	高知県精神科医会
6月	日本精神神経学会
7月	院内研修
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	高知県精神科医会
1月	
2月	
3月	研修の統括

週間予定表

B 研修連携施設

⑫医療法人同仁会 同仁病院

	月	火	水	木	金
8:45-9:00	申し送り	申し送り	申し送り	申し送り	申し送り
9:00-12:00	新患患者 外来業務	外来 デイケア	院外研修	新患患者 外来業務	病棟業務

13:00-13:30	医局会 医療検討会			外来業務	外来業務
13:30-17:00	病棟業務	デイケア	院外研修	病棟業務	病棟業務
17:00-		ナイトケア			
*院外勉強会開催時は適宜参加					

年間予定表

B 研修連携施設

⑫医療法人同仁会 同仁病院

	行事
4月	オリエンテーション
5月	高知県精神科医会参加
6月	
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	高知県精神科集談会参加・演題発表
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成
*各種学会・研修会に関しては、院内規定により医局内で参加を検討	

週間予定表

B 研修連携施設

⑬医療法人一条会 渡川病院

	月	火	水	木	金
午前	外来	新患診察	病棟業務	病棟業務	認知症疾患医療センター
午後	外来	外来	病棟業務	デイケア	病棟業務

年間予定表

B 研修連携施設

⑬医療法人一条会 渡川病院

	行事
4月	オリエンテーション
5月	高知県精神科医会参加
6月	学会参加
7月	指導医との面談（1）
8月	
9月	
10月	指導医との面談（2）
11月	
12月	
1月	指導医との面談（3）
2月	
3月	指導医との面談（4）

週間予定表

B 研修連携施設

⑭大阪大学医学部附属病院

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟業務	病棟業務 mECT	病棟業務	外来業務 (平日のいずれか週1回)	病棟業務 mECT	
午後	病棟業務 14:00 ケースカンファレンス 15:30 病棟回診 18:00 医局会 19:00 薬剤勉強会	病棟業務	病棟業務	病棟業務 週間サマリー作成	13:30 リエゾン回診	
夜	論文抄読 (psychiatry salon)				宿直 (平日のいずれか月2回)	

※いずれの施設においても、就業時間が40時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。
原則として、40時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

年間予定表

B 研修連携施設

⑩大阪大学医学部附属病院

4月	オリエンテーション	
5月	精神医学講義	
6月	月曜日 17:00-17:45、	■本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会 参加（任意） 和風会精神医学研究会参加
	火曜日 10:00-11:30 金曜日 10:00-11:30	
7月		近畿精神神経学会参加 夏季休暇取得可能期間（7月～9月）
8月		
9月		和風会講演会参加
10月		
11月		和風会総会（特別講演）参加
12月		
1月		
2月		近畿精神神経学会参加
3月	研修総括評価	和風会講演会参加
	研修プログラム評価報告書の作成	